

# ヒロシマをつなぐ

原爆投下69年

Ⓕ

「震え、涙し、話し者となる。」

「もらった被爆者の体験をこのままにしてい

いのか」。ボランティア原爆投下後の広島市の

ア団体代表の保田麻友さん(29) 広島市南区

度は始めた被爆体験伝承者養成事業に参加し

た思いをこう語る。伝承者候補は3年間

のプログラムを受け用いた」と考えている。被爆証言者の体験

談を聞き、引き継ぎたいと思う人と組む。月

2回程度のミーティン

いよう置き換えに腐心

するが、今も答えは見

つかっていない。

また被爆者の体験を

知っているだけでは対

応できない。学生に向

けて話していると「福

島の原発問題をどう考

えていきますか」と投げ

## 被爆伝承者養成 体験談 自分の言葉で

グやフィールドワークの光景を「避難してき

て学び、自分の伝承原稿を作る。証言者と市

担当課から承認される

当と認められれば伝承

え聞きでは意味がない

とする。「証言者のミ

はなく自分の言葉を紡

たことを伝えるので

(中田佐知子)



被爆体験者の新井俊一郎さん(右)の思いを受け継ぐ保田麻友さん(左)

7月30日午前、広島市

は」。保田さんの耳に

「実際にそれらを手に

がつけられたら」と前を

被爆70年の来年度に

デビューを控える保田

さんの、新井さんは、本

人の私が絶句するよう

な原稿ができています。

広島を伝えなきゃなら

ん、今がラストチャン

スという皆の思いが結

実している」と太鼓判

を押す。

保田さんは力強く語